令和８年度 川西町「全国学力・学習状況調査」の結果

はじめに

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、以下の３点を調査の目的としています。まず1点目、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。2点目は、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。3点目は、その取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するとしています。

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月 23 日に川西小学校の6年生を対象として、国語・算数の２教科で実施されました。その調査問題は学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題や、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につながる問題が出題されました。また、児童質問調査は４月 27 日に1人1台端末を使って、オンライン方式で行われました。

川西町教育委員会では、児童質問調査の結果も併せて、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、ここに公表させていただきます。そして分析結果を踏まえて、本町の学校教育の目標である「確かな学力の育成」、「豊かな人間性の育成」、「たくましい心身の育成」を追求し、「夢と希望にあふれ、いきいきとした子どもの育成」を目指して、学校教育の改善を図っていきたいと考えています。

なお、本調査結果は、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと、また、学校では様々な教育活動を進めていることを十分ご理解いただきますようお願いします。

また、本町の学校目標を達成するには、学校と地域・家庭との連携が不可欠です。今回の公表を通して、さらに教育への関心を高めていただく機会となることを願っております。皆様方には、今後とも変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

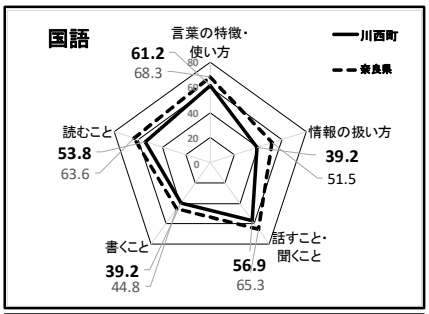
川西町教育委員会

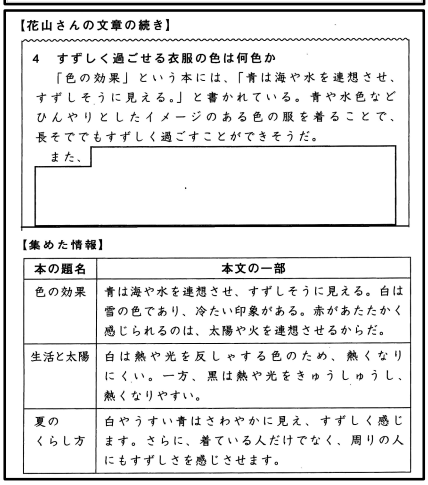
教科に関する調査

《平均正答率と平均正答数》＊平成29年度から、国からの都道府県別の平均正答率の提供が整数値となったため、県・町の平均正答率を整数値で示しています。

		国　語	算　数
川西町	平均正答率	52%	50%
	平均正答数	6.8 問／13 問	8.0 問／16 問
奈良県	平均正答率	61%	56%
	平均正答数	7.9 問／13 問	9.0 問／16 問
全国	平均正答率	60.9%	56.4%
	平均正答数	7.9 問／13 問	9.0 問／16 問

教科に関する調査結果【国語】





【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでですずしく過ごすことができそうだ。

また、

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

国語の調査において、「書くこと」の領域に大きな課題が見られます。この領域では、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか」をみる問題が出題されました。具体的には、［花山さんの文章の続き］の空欄に入る内容を、［集めた情報］から必要な情報を抜き出し、自分の考えが伝わるように書くという問題で、４つの条件を満たすことが求められました。

①［集めた情報］の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書く。
②抜き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ(「」)でくくる。
③抜き出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書く。
④140 字以内にまとめて書く。

この４つの条件をすべて満たして正答した児童は 20%（全国 28%）にとどまりました。また、惜しくも条件②のみを満たさなかった児童が 6%、条件③のみを満たした児童が 29.2%いました。このことから、自分の考えを書くことはできていても、資料から必要な情報を適切に取り出したり、その情報を自分の考えの根拠として結び付けたりしながら、条件に沿って文章にまとめることに課題があると考えられます。

特に、条件③だけを満たした児童が 29.2%いたことから、「自分はどう考えるか」ということは表現できても、「なぜそう考えるのか」を資料や情報を根拠として示し、相手に分かるように説明する力が十分に身に付いてい

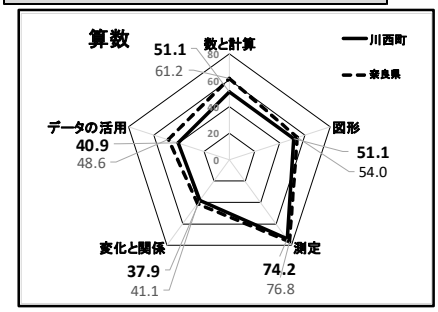
ないことがうかがえます。このことは、領域の中の「情報の使い方」の正答率が 39.2%（全国 52.3%）であった結果とも結び付いていると考えられます。

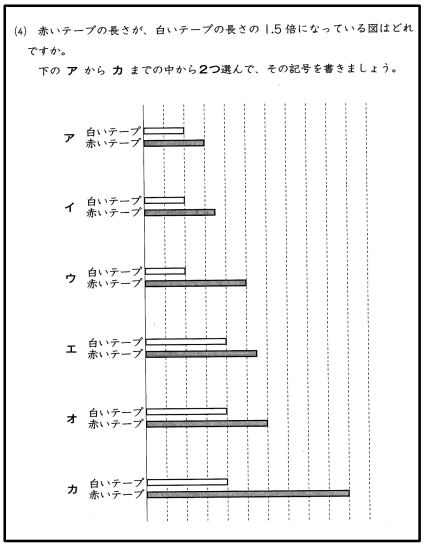
また、無回答率が 13.8%と全国の 5.2%を大きく上回っていることから、複数の条件を踏まえて文章を書くことに難しさを感じ、どの情報を使って、どのように書けばよいのかを判断できないまま、無回答となった児童もいると考えられます。

これらのことから、今後は、単に文章を書く練習だけでなく、「自分の考え」と「その考えを支える根拠」を区別して表現することを意識した学習が必要です。

さらに、資料を読む際には、「情報を見付ける」→「必要な情報を選ぶ」→「自分の考えと結び付ける」→「文章にする」という一連の過程を丁寧に学習を積み重ねることで、条件を意識しながら、自分の考えを根拠とともに相手に分かりやすく伝える力の育成につながると考えます。

教科に関する調査結果【算数】





算数の調査において、「変化と関係」の領域に課題が見られます。本領域では、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかを見る問題が出題されました。具体的には、「赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図を 2 つ選ぶ」問題です。

調査結果を見ると、正解である「ア・オ」を選択できた児童は 19.7%（全国 34.2%）にとどまりました。一方で、誤答である「イ・エ」を選択した児童が 43.9%（全国 35.9%）と大きな割合を占めました。誤答の要因を探ると、「イ・エ」の図はいずれも基準となる白いテープに対して「1.5 目盛り（1.5 個分）多い量」を示していることが分かります。このことから、児童は「基準量の 1.5 倍にあたる量（乗法の関係）」を、「基準量より 1.5 目盛り多い量（加法の関係）」と混同して捉えている可能性が考えられます。割合を「倍（倍率）」として視覚的・概念的に捉える力が十分に定着しておらず、単純な目盛りの差として捉えてしまう傾向が浮き彫りとなりました。

このような課題を踏まえ、今後の指導においては、「倍」や「割合」の概念を意味に基づいて深く理解させる学習活動を一層重視する必要があります。

あわせて、学校での学びを日常の体験と結びつける家庭との連携も有効です。例えば、家庭生活の中で「2 人分のレシピを 3 人分（1.5 倍）にする活動」を行ったり、買い物時に「『1.5 倍サイズ』は元の商品 1 個分とあと半分が入っている」といった会話を取り入れたりするなど、実体験を通した具体的なイメージづくりを促すことで、学校での確かな学びの定着につながると考えられます。

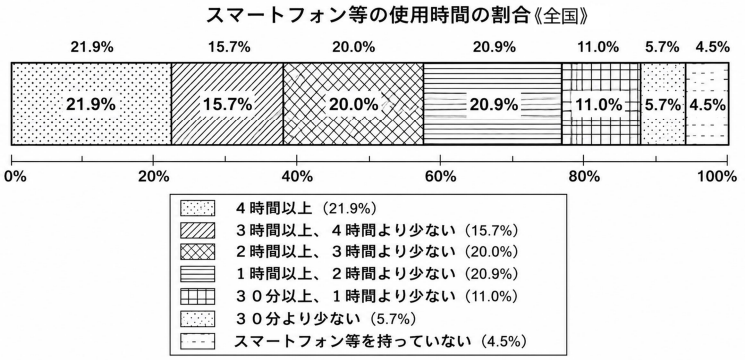
児童質問より《特徴的な項目比較》 ※各表の数値の単位は%です

全国学力学習状況調査と同時に児童質問という調査が合わせて行われています。この質問のねらいは、単なる知識や技能だけでなく、児童生徒の学習態度、学習意欲、学習方法、さらには学習環境など、学力に影響を与える多角的な要因を把握することです。これにより、学力テストと児童質問の結果から、総合的な視点で教育の質的向上を図るために重要な役割を果たしています。

さて、今年の質問の中に、次のような質問があります。

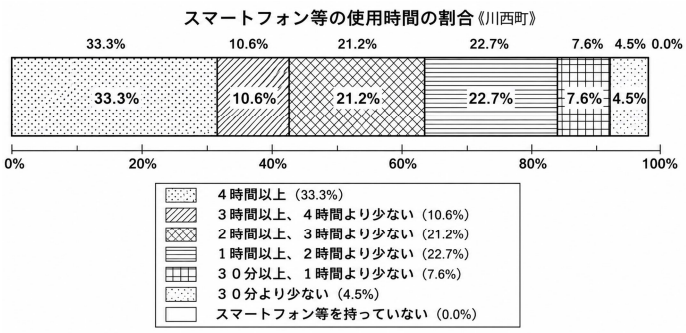
「普段(月～金)、1 日あたりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか。（スマホ等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」

右のグラフは、全国の児童を対象とした回答の結果ですが、「4 時間以上」利用していると回答した児童が 21.9%、「2 時間以上」と回答した児

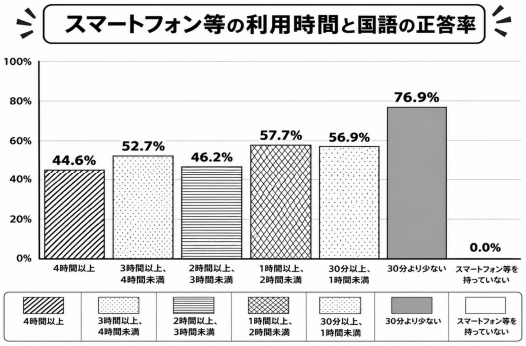


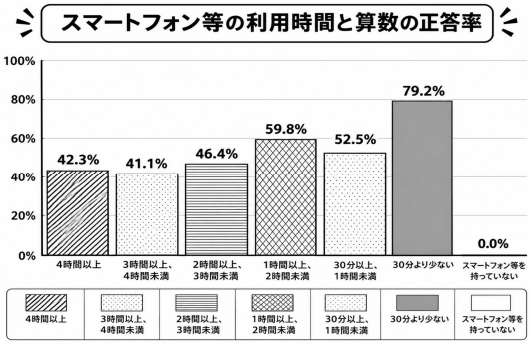
童は 57.6%となっています。

では、本町の児童の状況を、次のようにグラフにしてみました。本町では、SNS や動画視聴などを「4 時間以上」利用していると回答した児童が 33.3%、「2 時間以上」と回答した児童は65.1%となっています。本町では「4 時間以上」の児童の割合が全国より 11.4 ポイント、「2 時間以上」の児童の割合が 7.5 ポイント高くなっています。このことから、本町では、全国と比較して SNS や動画視聴などに長時間を費やしている児童の割合が高い状況にあることが分かります。



スマートフォン等の利用時間と各教科の正答率との関係については、全国の結果からも、SNS や動画視聴などの時間が長い児童ほど正答率が低くなる傾向が見られており、本町の児童についても下のグラフのような結果でした。





このことから、本町においても、SNS や動画視聴などの長時間利用と学習状況との間には、一定の関連があることがうかがえます。長時間の利用が、家庭学習や十分な睡眠など、学習や生活の充実につながる時間の確保に影響している可能性も考えられます。

そこで、正答率との関連をスマートフォン等の利用時間だけから捉えるのではなく、その他の生活習慣についても、児童質問の結果から本町の状況を見てみましょう。

次の数値（%）は、「している」「どちらかといえばしている」と回答した割合です。

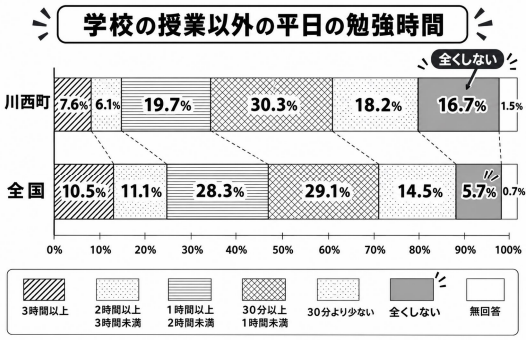
◆「朝食を毎日食べていますか」という質問には 90.9%（全国 93.3%）

◆「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問には 86.3%（全国 82.8%）

◆「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問には 87.9%（全国 90.7%）

以上のように肯定的な回答が多く、基本的な生活リズムについては、一定程度身に付いている状況がうかがえます。

一方、「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問では、「2 時間以上」が 13.7%（全国 21.6%）、「1 時間以上、2 時間未満」が 19.7%（全国 28.3%）であるのに対し、「全くしない」が 16.7%（全国 5.7%）となっています。家庭での学習時間については、全体として全国と比較して短い傾向が見られるとともに、特に「全くしない」と回答した児童の割合が全国の約 3 倍に上っていることから、家庭で学習する習慣の定着が大きな課題となっています。



また、本町では読書活動を大切に考えています。読書についての質問「学校の授業時間以外に、普段、1 日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問では、「1 時間以上」が 13.7%（全国 11.9%）、「30 分以上 1 時間未満」が 10.6%（全国 14.2%）、「10 分以上 30 分未満」が 16.7%（全国 20.0%）、「全くしない」が 21.2%（全国 26.3%）となっています。「1 時間以上」の割合は全国を上回り、「全くしない」の割合が下回るなど、読書に親しんでいる児童が一定数いることがうかがえます。しかし、無回答の児童が 28.8%（全国 12.4%）と非常に高い割合であることから、本町の児童の読書習慣全体については、今回の結果だけでは正確な実態を把握しきれない状況にあり、継続的な実態把握が必要と考えます。

これらのことから、本町では、基本的な生活リズムが一定程度保たれている一方で、SNS や動画視聴などの利用時間は全国より長く、家庭での学習時間が短いという状況が見られます。

こうした結果を踏まえると、SNS や動画視聴などの利用時間の長さを単独の課題として捉えるのではなく、児童が家庭で過ごす時間全体をどのように使っているのかという視点から考えることが重要です。特に、SNS や動画視聴などの時間が長い一方で、家庭での学習時間が短いという本町の状況からは、日々の生活の中で、家庭学習の時間をどのように確保していくかが一つの課題であると考えられます。

そのため、単にスマートフォン等の利用時間を減らすことを求めるのではなく、睡眠や食事といった基本的な生活リズムを大切にしながら、SNS や動画視聴、家庭学習、読書などの時間を適切に配分し、自分の生活を自ら管理する力を身に付けていくことが重要です。今後、家庭と学校が連携し、児童が自分の生活時間の使い方を振り返り、よりよい生活習慣を自ら考え、実践できるよう取り組んでいく必要があります。

調査結果から川西町の教育について考える　～教育委員会～

◎学校教育のスローガンは「思考力を高める川西の教育」です

(1)「確かな学力の育成（論理的思考力・表現力）」を目指します

基礎的な知識・技能の定着に加え、答えだけでなく「なぜそうなるのか」という根拠を示して説明する力を育てます。資料から必要な情報を選び出し、自分の考えと結びつけて相手にわかりやすく伝える場面を増やし、思考力・表現力を培う授業改善に取り組みます。

(2)「豊かな人間性と実践的思考力」を目指します

体験活動（奉仕活動や自然体験等）を通して思いやりの心を育みます。あわせて、学校で学んだ概念や知識を身近な生活の実体験と結びつけて理解を深め、実生活で生きて働く思考力を育てます。

(3)「地域と共にある学校・園づくり（主体的な生活管理）」を目指します

家庭や地域と協働し、子どもたちが自らの生活時間（スマホ利用・学習・睡眠）を振り返り、主体的に時間をコントロール・管理する力を学校・家庭・地域が一体となって育みます。

保護者・地域の皆様へのお願い

(1) 1 日のスタートを大切にしましょう！

❁ご家庭の協力のもと、「早寝・早起き・朝ご飯」で基本的な生活リズムを確立させましょう。

(2)温かく見守り、声をかけましょう！

❁子どもたちに「おはよう！」「気をつけてね」と声をかけ、地域全体で健やかな育ちを見守りましょう。

(3)ルールを話し合い、生活時間の自律管理を促しましょう！

❁スマホやメディアの利用時間などを親子で話し合って決め、学習や睡眠時間を含めて「自ら生活時間を調整する力」を育みましょう。

(4)「なぜ？」を問いかけ、ほめて伸ばしましょう！

❁日頃から「なぜそう思うの？」と根拠や理由を聞き出し、自分で考えようとする姿勢や挑戦する心をほめて伸ばしましょう。

(5)生活の中の会話や読書を通した「考える機会」を増やしましょう！

❁日常生活での会話や、「家読（うちどく）」による読み聞かせを通して、親子のコミュニケーションを楽しみながら思考力を育みましょう。